

東京国立近代美術館 収集の概要（令和4年度）

東京国立近代美術館本館では、19世紀末から今日までの日本画、洋画、彫刻・立体造形、版画、水彩・素描、写真、映像作品を、日本を中心に、日本に影響を与えた海外作家の作品も併せ収集している。年度計画の中では、①1970年代以降の日本と海外の作品の収集、②日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集、③1900～1940年代の日本画などの収集に特に注力することになっており、令和4年度は①として、吉澤美香、遠藤麻衣×百瀬文など、いずれも現在活躍中の女性作家の作品を収集し、多様化する現代の美術の動向をより広く紹介することが可能となった。また②として、近年、世界的に再評価が進み、また日本の彫刻家とも交流のあったフランスの女性作家ジェルメース・リシエの彫刻を収集できた。③として、安田靫彦による再興院展出品の大作を収集し、より包括的にその画業を通覧することが可能となった。

国立工芸館では、近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能としつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努めている。とりわけ日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心としている。令和4年度についても以上の方針を踏まえ、近代から現代の若手にいたるまで幅広い時代の作品を収集した。近年、当館では明治期の超絶技巧の工芸作品の収集に力を入れてきたが、今年度は幸阿弥派の正統を継ぐ最後の蒔絵師といわれる川之邊一朝の《梨子地青貝唐草内蒔絵硯箱・料紙箱》を収蔵することができた。また金沢在住の人間国宝である中川衛の作品（《象嵌臙銀花器「チェックと市松」》）を初めて購入収蔵し、伝統工芸系の作品の充実を図った。また展覧会開催と作品収蔵は密接に関係しているが、今年度開催した「ジャンルレス工芸展」への出品を契機に青木千絵の《BODY19-1 孤独の身体》を購入、本作は2019年の「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」受賞作でもある。

東京国立近代美術館 美術作品購入一覧（令和4年度）

＝特別予算購入

1

種別	別	： 日本画
作者名	名	： 竹内栖鳳(1864-1942)
作品名	名	： 日稼
制作年	年	： 1917年
材質・形状		： 絹本彩色・軸
寸法	法	： 210.5 × 88.5 c m
解説	説	： 戦前の京都画壇を代表する日本画家、竹内栖鳳による貴重な人物画。労働する女性をモチーフにした本作は、栖鳳の人物画の中で最大かつ最後の意欲作。
取得額	額	： 83,600,000円
展示予定	定	： 2022年度所蔵作品展に出品；2022年10月-12月

2

種別	別	： 日本画
作者名	名	： 安田靫彦（1884-1978）
作品名	名	： 居醒泉
制作年	年	： 1928年
材質・形状		： 絹本彩色・軸
寸法	法	： 117.5 × 174.5 c m
解説	説	： 歴史画の名手、安田靫彦。ヤマトタケルを描いた本作は、靫彦が肥瘦のない鋭い線描、簡潔なかたち、澄明な色彩を特徴とする「新古典主義」様式の確立へと向かう時期の意欲作。
取得額（円）		： 50,000,000円
展示予定		： 展示予定（所蔵作品展；2023年9月-12月）

3

種別	別	： 彫刻
作者名	名	： ジェルメース・リシエ（1904-1957）
作品名	名	： 蟻
制作年	年	： 1953年
材質・形状		： ブロンズにパティナ
寸法	法	： 99.0 × 88.0 × 66.0cm
解説	説	： ジェルメース・リシエは20世紀後半における女性彫刻家の先駆的存在の一人。彼女のキャリアを代表する、人間と動植物をかけあわせた「ハイブリッド」シリーズからの一点。
取得額（円）		： 337,686,800円
展示予定		： 展示予定（所蔵作品展；2024年1月-4月）

4 ★	種 別 : 油彩・その他 作 者 名 : 吉澤美香 (1959-) 作 品 名 : タイトルなし 制 作 年 : 1987年 材 質・形 状 : 水性ワックスパステル、紙・ビニール 寸 法 : 272.0 × 367.0 cm 解 説 : 吉澤美香は1980年代に鮮烈な存在感を示した女性作家。彼女の後年の展開の起点に位置づけられるとともに、80年代美術のキーワードの一つ「描くことへの回帰」を体現する作品。 取得額（円） : - 展 示 予 定 : 計画中
5	種 別 : 漆工 作 者 名 : 川之邊一朝 (1831-1910) 作 品 名 : 梨子地青貝唐草内蒔絵硯箱・料紙箱 制 作 年 : 明治時代 材 質・形 状 : 漆、螺鈿 寸 法 : 硯箱 : h6.5 × w21.0 × d25.2cm料紙箱 : h14.7 × w32.3 × d41.5cm 解 説 : 硯箱と料紙箱はいずれも印籠蓋造で、蓋表に螺鈿技法を用いた唐草文を展開し、中央には花形とそれを取り巻く花卉をあしらった文様を置く。蓋裏にはそれぞれ水辺にたつ芭屋を高蒔絵で表す。名工として知られる川之邊一朝による明治期の蒔絵の優品。 取得額（円） : 38,500,000円 展 示 予 定 : 「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展」にて2023年10月～11月展示予定
6 ★	種 別 : 漆工 作 者 名 : 作者不詳（芝山象嵌） 作 品 名 : 渡船・雨宿芝山象嵌屏風 制 作 年 : 明治時代 材 質・形 状 : 漆、芝山象嵌（象牙、貝） 寸 法 : h178.0 × w164.0cm 解 説 : 貝・珊瑚・鼈甲・翡翠・象牙などを用いて漆面に人物や花鳥などのモチーフを象り嵌め込む芝山細工の屏風で、表面に渡船図、裏面に雨宿図を描く。日本の工芸の変革期を端的に伝える作品。 取得額（円） : 41,800,000円 展 示 予 定 : 計画中
7	種 別 : 陶磁 作 者 名 : 小川待子 (1946-) 作 品 名 : Untitled 制 作 年 : 1996年 材 質・形 状 : 陶器 寸 法 : h31.0 × w63.0 × d4.0cm 解 説 : 内側と外側の二重構造による半球体の作品で、酸化鉄による赤色がいかにも干上がった大地の色を思わせる。概念的かつ原初的な「うつわ」のイメージを具現化した作者の特徴とその後の展開を示す一品。 取得額（円） : - 展 示 予 定 : 計画中

8	種 別 : 陶磁 作 者 名 : 楠部彌弼 (1897-1984) 作 品 名 : 彩埴興亜之意花瓶 制 作 年 : 1937年頃 材 質・形 状 : 磁器、彩埴 寸 法 : h31.6 × w24.1 × d23.9cm 解 説 : 楠部の作風としてもっとも知られる彩埴技法によるもので、菊、牡丹、蘭などを落ち着いた色調で表す。戦前から戦後にいたる楠部の多彩な作風の展開を示す上で、写生的要素を見せる作例として貴重である。 取得額 (円) : 5,500,000円 展 示 予 定 : 計画中
9	種 別 : 陶磁 作 者 名 : 杉浦康益 (1949-) 作 品 名 : 向日葵の種子 制 作 年 : 2022年 材 質・形 状 : 陶 寸 法 : h20.0 × w88.0 × d80.0cm 解 説 : 子細な観察に基づき、朽ちていくヒマワリの種子を乾いたような質感まで陶でリアルに表現した作品。2000年から継続的なテーマとなっている「陶の博物誌」シリーズに位置づけられ、とりわけ密度の高い優品である。 取得額 (円) : - 展 示 予 定 : 計画中
10	種 別 : 陶磁 作 者 名 : 牟田陽日 (1981 -) 作 品 名 : ケモノ色絵壺 制 作 年 : 2022年 材 質・形 状 : 磁土、色絵磁器 寸 法 : h37.5 × w31.5 × d21.5cm 解 説 : 牟田陽日は、九谷焼の素材や技法をもとに、古今東西の図像を再構築しながら独自の世界を表す色絵磁器作家。鮮やかな彩色で絵画のような加飾を施した本作は、作者の最新作で、九谷焼の新しい展開を示すものである。 取得額 (円) : - 展 示 予 定 : 2022年度「ジャンルレス工芸展」出品
11	種 別 : 漆工 作 者 名 : 青木千絵 (1981 -) 作 品 名 : BODY19-1 孤独の身体 制 作 年 : 2019年 材 質・形 状 : 漆、乾漆、麻布、発砲スチロール 寸 法 : h63.0 × w60.0 × d100.0cm 解 説 : 青木千絵は、自分自身の体をモデルとして人の不安や孤独を表現する漆彫刻家。2019年「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」において優秀賞を受賞した本作は、漆特有の深い艶で体の一部を液体のように表し、人の心の内奥を伝える優品である。 取得額 (円) : - 展 示 予 定 : 2022年度「ジャンルレス工芸展」出品

12	種別 : 漆工 作者名 : 六角大壤（穎雄）（1913-1973） 作品名 : 和樂の圖蒔繪箱 制作年 : 1949年 材質・形状 : 漆、蒔絵、卵殻 寸法 : h12.7 × w38.7 × d30.2cm 解説 : 六角大壤（穎雄）は、戦後に活躍した漆芸家。六角紫水の継承者と目されるも志半ばで他界し、残された作品は数少ない。第5回日展（1949年）で特選を受賞した本作は、卵殻、螺鈿、色漆、蒔絵など多彩な装飾技法によって花や蝶鳥文を描いた力作である。 取得額（円） : 2,970,000円 展示予定 : 計画中
13	種別 : 金工 作者名 : 中川衛（1947 - ） 作品名 : 象嵌臙銀花器 「チェックと市松」 制作年 : 2020年 材質・形状 : 臙銀、鋳造、象嵌 寸法 : h25.0 × w38.0 × d11.0cm 解説 : 中川衛は重要無形文化財「彫金」の保持者として高い評価を受ける金工家。風呂敷でモノを包み結ぶ一瞬の形をとらえた本作は、金銀、赤銅、四分一、銅などを多重に象嵌することで格子文様を表現し、正確な技術とモダンなデザイン感覚が融合した逸品である。 取得額（円） : - 展示予定 : 2024年度特別展に展示予定
他8点／計21点 購入総額 : 585,944,300円	